

令和8年5月25日

寒河江市議会議長 柏 倉 信 一 様

寒河江市議会
副議長 後藤 健一郎

姉妹都市ギレスン市訪問事業参加報告書

みだしのことについて、次のとおり報告いたします。

記

1 期 間 令和8年5月18日（月）～24日（日）

2 感想所見等 別紙のとおり

姉妹都市ギレスン市訪問事業参加報告書

副議長 後藤 健一郎

期 間	令和8年5月18日（月）～ 24日（日）
訪問先	トルコ共和国ギレスン市
（１） フアト・コセ市長表敬訪問・記念品贈呈・懇談会 「日本一さくらんぼの里」である寒河江市が、サクランボの原産地であるギレスン市と友好親善を深めようと、1988年（昭和63年）6月25日に姉妹都市を締結いたしました。以降、相互訪問を中心とした交流を重ねてまいりました。 この度、国際ギレスン・アクス・フェスティバルへの招聘を受け、齋藤市長、佐藤教育長とギレスン市を訪問するとともに、寒河江市で2年後に予定している姉妹都市締結40周年記念セレモニーへの来寒を要請してまいりました。 また、フアト・コセ市長をはじめとした市職員、ならびに国、県、市議会議員の方々と、今後の交流発展に向けた取り組みについて意見交換を行いました。 （２） 寒河江モニュメント除幕式 ギレスン市役所前にあるアタテュルク広場の一角に、3mほどあると思われる、ギレスン市と寒河江市の市章をデザインした大きなさくらんぼのモニュメントを制作・設置していただきました。多くの市民が見守る中、フアト・コセ市長と齋藤寒河江市市長が除幕式を行いました。 （３） 寒河江コーナー（親善交流写真展示会）見学 今回の訪問を記念し、ギレスン市役所向かいにある文化センターで、寒河江市のさくらんぼ、慈恩寺、神輿や寒河江市の風景などの写真と、ギレスン市の風景や特産などの写真を展示した「交流写真展」が行われました。会場にはギレスン市民の皆様もお見えになっており、寒河江市について翻訳アプリを使いながら簡単な説明もさせていただきました。 （４） 「姉妹都市寒河江通り」見学 ギレスン市にある「姉妹都市 寒河江通り」を見学いたしました。 現在、ギレスン市には寒河江市の他にも姉妹都市がありますが、通りに名前をつけているのは寒河江市だけとのことでした。 また、通り沿いのパン屋さんで熱烈的な歓迎を受け、トルコで親しまれているパンを頂きながら、お話をさせていただきました。 （５） 旧ギレスン城を活用した市特産品を利用したレストラン視察 ギレスン市を見下ろす旧ギレスン城を再利用し、レストランとして市が運営しています。こちらでいう「山菜」を使ったヘルシーなメニューを提供していました。市長曰く「市民の健康増進と地域特産品の利用を両立している」とのことでした。寒河江市で例えるならば、	

小学校の旧校舎を利用し山菜料理等を提供する「たしろ亭」が一番近いイメージのような気がいたします。

(6) アタテュルク記念・青年とスポーツの日パレード、国際ギレスン・アクス・フェスティバル 祭りの火・点火式への参加

1919年5月19日にムスタファ・ケマル・アタテュルクが黒海沿岸の都市サムスン（ギレスン市の近隣）に上陸し、トルコ解放戦争の指導者として独立運動の第一歩を踏み出しました。アタテュルク氏は「国の未来は若者にかかっている」とし、「スポーツと芸術を強く奨励」したことから、5月19日を「アタテュルク記念・青年とスポーツの日」と定め、トルコ国民が祝う重要な祝日の一つとなっています。

この日はトルコ国内各地でパレードが行われたようですが、私たちが訪問したギレスン市では、チョタナク小学校からアタテュルク広場（市役所前広場）までの約1時間のコースを、ファト・コセ市長をはじめ国、県、市議会議員たちと一緒にパレードに参加いたしました。沿道では、「トルコへようこそ」と書かれた手作りの看板を持った市民をはじめ、沢山のの方に歓迎していただきました。

また、到着した広場では、アクスフェスティバルの祭りの火・点火式に参加し、会場に集まった多くの市民の皆様と一緒に盛り上がりました。

なお、私たちはここまでの参加でしたが、会場ではトルコで有名な歌手の無料コンサートが行われ、未明まで盛り上がったそうです。

(7) 第49回国際ギレスン・アクス・フェスティバルへの参加

アクス・フェスティバル（Aksu Festivali）は、ギレスン市で毎年5月に開催される、数百年以上前から祝われてきた伝統的な祭りだそうです。

願い事をしながらサクアヤク（Sacayak）と呼ばれる鉄の三脚を3回くぐり、その後黒海に流れ入るアクス川に7つの石を4回に分けて（2個×3回、最後に1個）後ろ向きに投げ入れて厄払いを行いました。神道でも、心身の穢れを身代わりとなる人形（ひとがた）に移して海や川に流して祓い清める「大祓（おおはらい）」を行いますので、それに似ていると感じました。この祭事・神事に加えて、ギレスン市役所職員有志や近隣諸国からの訪問団による舞踏の披露を行うのが「国際ギレスン・アクス・フェスティバル」で、時間の都合上、2～3団体のみ見学させていただきました。

「アクス・フェスティバル」と「国際ギレスン・アクス・フェスティバル」は本来別物だそうです。現在の寒河江まつりは、地元に数百年前からある寒河江八幡宮の神事・祭事と、40年以上前に寒河江青年会議所が企画した「熱狂！裸神輿」が一緒になって今の催事（≠祭事）になっているため、ここも似た印象を受けました。

(8) ギレスン市消防署 視察

今回13年ぶりに訪問することになりましたが、そのきっかけとなったのが、令和6年度の「草の根・人間の安全保障協力」です。

トルコと日本は、地理的な距離にもかかわらず、歴史を通じて友好、協力、連帯を基礎とした強固な関係で結ばれており、両国の友情と協力が地域レベルで更に強固になるよう「草の根・人間の安全保障協力」を行っています。令和8年1月に在トルコ日本国大使館からギ

レスン市へ「搜索救助用車両」が提供されました。

ギレスン市消防署を訪問し、実際に提供された車両および現在の消防体制、配置車両などを視察いたしました。

(9) 在トルコ日本国大使館 田村政美大使表敬訪問・記念品贈呈

今回のギレスン市訪問のきっかけを作っていただいた在トルコ日本国大使館の田村政美大使を表敬訪問し、記念品を贈呈いたしました。

また、現在のトルコ情勢や、日本で報道されているいわゆる「クルド人問題」等について、懇談を行いました。

(10) 視察を終えて

相互訪問が13年前に途絶えてしまっており、これだけ長期間関係がない状態が続いてしまうと、新たなアクションが難しくなっていたのですが、ギレスン市への搜索救助用車両が提供され、その贈呈式に寒河江市長がビデオメッセージを送ったことをきっかけとして、今回こういった訪問、そして2年後の来寒の要請ができたことに、在トルコ日本国大使館及び関係機関の皆様に深く感謝しております。

実は日本へ帰る際、トラブルに見舞われたのですが、「日本の寒河江市から来たギレスン訪問団でしょう？」と、前日の訪問のニュースを見たギレスン市民が助けてくれる場面がありました。

韓国や台湾と違い、移動だけで1日半以上かかる長距離のため、相互訪問等の頻繁な往来は難しいところではありますが、38年に及ぶ両市の良好な関係を肌で体感できる訪問となりました。